

【機密性1】

記者会見 配布資料

令和6年7月5日（金）

総務企画部

オープンシティ・プロモーション室

定例記者会見 市長コメント（概要）

東洋経済新報社が、全国の812市区を対象に調査を行い、毎年公表している「住みよさランキング」の2024年版が、先月発表され、その中で釜石市が全国で27位、東北地方で1位に選出された。

同ランキングは、安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの視点から、住みよさを表す20の指標についての偏差値を算出し、その平均値を総合評価として、順位付けしているもの。

民間企業が公表したものではあるが、全国的な調査において、高く評価されることは大変喜ばしいこと。

①夏季に開催される観光スポーツイベントについて 資料1

当市において、夏季を中心に開催される観光イベント、及びスポーツイベントについて、以下のとおり発表する。

まず、7月13日に根浜海岸海水浴場の海開き神事が、釜石観光物産協会の主催により行われ、8月18日まで海水浴場を開設する。海水浴場を開設するにあたり、根浜海岸海水浴場及び箱崎フィッシャリーナにおいて、7月13日、14日に地引網体験やシーカヤックなどの海遊び体験を開催する。

また、7月から11月までの期間中「Meetup Kamaishi 2024」を開催する。これは「オープン・フィールド・ミュージアム構想」に基づき、様々な体験プログラムを通じて、釜石の魅力を体感してもらうことで当市に愛着を持ち、関わり続ける人を増やすことを目的として実施するもの。

今年は、7月から8月までを第1弾と設定し、漁船クルーズ、SUP、シュノーケリング等の体験プログラムを実施するほか、7月31日から8月2日まで釜石鉱山株式会社に協力していただき、普段は入られない坑道の中を見られる坑道体験を1日15名限定で行う。

第2弾は、準備が整い次第、順次情報提供する。

令和7年の「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録10周年を皮切りに、翌8年は「大島高任生誕200年」、9年は「釜石鉱山発見300年」と釜石市にとって記念すべき周年事業が予定されており、今年度は準備期間としてその周知に力を入れている。

まず、7月12日から9月2日まで鉄の歴史館において「明治日本の産業革命遺産フォトコンテスト作品展」を開催する。これは、昨年開催した第2回コンテストの応募作品677点の中から、最優秀賞、優秀賞受賞作品など合計45点を展示するもの。

次に7月20日に「橋野鉄鉱山見学会」を開催する。なお、本イベントでは常時公開されている高炉場跡だけでなく、安全上の理由から通常は非公開としている採掘場跡と運搬路跡についても併せて公開する。

三陸ジオパークのジオサイトであり、日本最大の鉄鉱山である釜石鉱山では、主に鉄鉱石と銅鉱石を採掘していたが、鉄鉱石以外にも様々な種類の石が存在する。そのような背景から、鉄鉱石以外の岩石を採集し、標本箱を作る「鉱山(やま)の宝探し」を7月27日に開催する。

8月4日に根浜海岸特設会場において、「第8回釜石オープンウォータースイミング2024根浜」が、同大会の実行委員会主催により開催される。

競技種目としては、中学生以上が対象の3km、5km、5km日本選手権トライアルや小学4年生から6年生が対象の500m、1kmなどとなっている。

会場となる根浜海岸は、持続可能な観光の国際的認証団体であるグリーン・デスティネーションズにより「世界の持続可能な観光地TOP100選」に6年連続で選出、また、昨年度はイギリスのタイムズ紙において「日本で訪れるのに最適な14の場所」に釜石市街地と併せて「みちのく潮風トレイル」として選出されており、魅力あふれる場所である。

また、日本水泳連盟認定大会サーキットシリーズとしても定着し、8回目となる今大会の参加者は265名となっており、遠方では徳島県や長崎県からもエントリーいただいている。

このように魅力あふれるイベントを数多く実施する予定であることから、市内外より多数ご参加いただくことを大いに期待するもの。

②定額運賃（サブスク）で乗る地域コミュニティバス実証実験の実施について 資料2

当市では、路線バスや支線部バス、タクシー、鉄道といった公共交通の基幹となる路線を

効果的につなぐことにより、便利で持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指している。

昨今の人口減少や少子高齢化の進行により、公共交通利用者の減少も課題となっていることから、その解決策の一環として、支線部バスの南部コミュニティバス区間において、一月あたり2,000円の乗り放題定期券を新たに加えることで、便利で持続可能な公共交通ネットワークの形成における支線部バス運行への有効性について、実証実験を行い検証するもの。

実証実験の期間としては、8月1日から10月31日までの3か月間を予定しているが、利用状況の推移を見ながら効果を検証し、期間の延長などを検討してまいる。

本定期券は、運行事業者である「岩手旅行社」、「釜石タクシー」のコミュニティバス車内で購入可能であるほか、唐丹地区生活応援センターでも販売を予定している。

今回は南部コミュニティバス区間のみでの実証実験となるが、利用状況や収支等の結果を分析し、ほかの支線部バス路線に展開した場合の可能性について検証してまいる。